

平成 25 年度のごみゼロプラン推進委員会の意見と今後の方針

1 ごみゼロ社会実現プランの進捗状況の点検・評価について

(1) 委員会で出された意見

- ・わかりやすいごみの変化の表現方法の検討と点検・評価の結果を踏まえた今後の方向性を記載が必要ではないか。
- ・点検・評価結果を見せる主体を意識した記載が必要ではないか。
- ・市町や事業者、NPO 等の先進的な取組を共有することが必要ではないか。

(2) 課題

- ・点検・評価の結果について、読み手を意識した効果的な伝え方をする必要
がある。

(3) 課題解決に向けた方針と具体的な取組

- ・点検・評価の内容を会議等の様々な場で効果的に各主体に伝えることが
できるよう、点検・評価の年度前半の公表に努める。
⇒各主体へのアンケートを早期に実施できるよう努める。
⇒市町の環境推進員向けの研修会や県民向けの講習会等を活用し、情報共
有に努める。
(講習会、会議、イベントの活用)
⇒第 8 回点検・評価(報告書)にトピックスとして、NPO 等の取組事例
を追加。
⇒各主体の取組を具体的に把握できるようアンケート内容の精査を行う。
⇒ごみゼロ出前授業などで、ごみゼロ社会の必要性や各主体の取組効果に
ついて伝えていく。

2 様々な主体とのかかわりについて

(1) 委員会で出された意見

- ・資源ごみについて、行政回収以外に民間回収も大きな役割を果たしている。民間でできる部分は民間でもらってよいのではないか。そのためにも、県として資源回収の実態についてデータを把握しておく必要があるのではないか。(資源回収量は新聞・古紙が占める割合が多いと思う)
- ・事業者として、CSRの一環として事業者とNPO等団体との連携した取組ができれば効果があると思う。
- ・出したごみをどうするかではなく、そもそもごみを出さないことが大切である。
- ・市町や事業者などの課題を把握・整理したうえで、実際の対応事例等を答えてもらうようなアンケートを実施し、まとめた情報を点検・評価に反映し、共有してはどうか。
- ・事業者のCSRの取組、市町ごとに分別方法が異なる理由などの情報が住民へ伝わっていないのではないか。

(2) 課題

- ・各主体でごみゼロ社会の実現に向けた取組が進められているが、具体的な取組効果が見えにくい状況となっている。

(3) 課題解決に向けた方針

- ・ごみゼロ社会の実現を促進するため、各主体の取組を共有できる場を設けるとともに、連携した取組が促進されるよう努める。
 - ⇒市町等訪問や事業者からの意見等を踏まえ、ごみゼロアンケートの内容を精査し、各主体の取組や課題等を把握できるよう努める。
 - ⇒民間資源回収をはじめ、民間で実施されている取組の効果把握に努める。
 - ⇒地域ごみゼロ交流会を活用した市町や事業者、NPO、住民との連携・情報交換の実施に努める。
 - ⇒事業者のCSRの取組、市町ごとに分別方法が異なる理由などの情報が住民等へ伝わるよう工夫する。